

# 第一回 齋藤茂吉短歌文学賞

岡井隆 「親和力」 砂子屋書房

〔選考委員〕

委員長 近藤 芳美  
委員 扇畑 忠雄 大岡 信

塚本 邦雄 馬場 あき子

正賞・茂吉自筆の短歌織画／副賞・賞金百万円

(五十音順)



## 齋藤茂吉短歌文学賞受賞者略歴

岡井 隆(おかいたかし)  
昭和3年(1928)名古屋市生まれ 62歳  
慶応大学医学部卒業 医師 大学教授  
昭和21年アララギに入会。昭和26年「未来」  
の創刊に参加。現在「未来」の編集責任者。昭和  
30年(1955)頃から塚本邦雄、寺山修司らと  
いわゆる前衛短歌運動を起こす。  
著作に歌集「斉唱」(昭和31年)、「土地よ、痛  
みを負え」(昭和36年)、「朝狩」(昭和39年)、「α  
(アルファ)の星」(昭和60年)評論に「茂吉の  
歌—私記」、「『人麿』からの手紙—茂吉の読み  
方」など多数。  
なお、昭和58年歌集「禁忌と好色」で第17回  
遼空賞を受賞している。

## 齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会

事務局

〒990 山形市松波二丁目八一— 山形県生活福祉部生活文化課

☎0336(30)2158

## 齋藤茂吉短歌文学賞受賞作

岡井 隆 「親和力」より

あさよひの交易摩擦あしひきの山川の瀬のなりひびくまで

コンテナ車かぞふる子らの声のなかさびし営利のはたてなる死は

友達のやうに手を振る妻子居て妻子居てさへさびしきものを

酒が来て肴が来ぬ間言ふべきか迷ひたれども一語言はずき

さいはひの浅瀬をわたる一家族提げたる靴を水に映して

世界まだ昏れゆかぬころ膝の上のにせたる頸を涙走りき

存在のはじめよりして呪はれし和歌のごとくに生き残りたり

あかあかとまなこをあけて昇り行く特殊潜航艇 「月読」は

ワイマールののちナチズムの興りしを読みつつ長く後架に坐る

額田郡にんじん村はほそき雨逢ひたくて来て逢はず帰りぬ

(掲載作選出 岡井 隆)

## 受賞のことば

岡井 隆

齋藤茂吉の文学を生涯の目標としてま  
いりましたので、今回の受賞は、大そう  
光栄に思っております。とくに第一回の  
受賞者となりましたことを嬉しく思っ  
ています。賞の選考委員の方々、山形県は  
じめ賞の運営委員会のみなさまにあつく  
お礼申し上げます。

わたしの今までの成し得た文学的な業  
績はまことに微々たるものでありますが、  
それでも、多くの読者の方々の支持なく  
しては今日まで続けて来られなかったと  
思います。若いころからのライバルや仲  
間の人たちと共に、辿ってまいりました  
道は、かならずしも平坦な道だったとは  
いえません。仲間や友人の中には既に亡  
くなった人もいます。新しい短歌を目指  
して研鑽して来た同志の人たちと、この  
受賞のよろこびをわかち合いたいと思  
います。今後、一步の新を目ざして妥協  
しない独りの道を行く覚悟であり  
ます。きびしい批判をお願いします。